

稲子湯

Inagoyu
(長野県小海町)



秘湯という言葉があるが、今回紹介する温泉も秘湯と言えるのではないだろうか。国道 299 号線を佐久から南下し、白樺林で有名な八千穂高原を通過。曲がりくねった険しい山道を進み、小海リエックスのゲレンデをくぐる短いトンネルを 2 つ通過すると、稲子湯への分岐がある。ここからさらに険しい山道を 3km. やっと現れるのが稲子湯だ。

稲子湯は木造の 2 階建ての建物で、山小屋風。それもそのはず。稲子湯は八ヶ岳登山の起点となる登山口がある場所だ。その標高は 1,460m. 八ヶ岳を効率的に攻めるには好都合の標高であり、下山後は温泉を楽しめるというわけだ。

稲子湯では日帰り入浴はもちろん、宿泊も可能である。1泊2食付なら 9,870 円、素泊まりなら 5,550 円である。外のごみ置き場には酒の空瓶が山積み。登山を楽

しんだグループがここで宴会を楽しんでいる様子が想像できよう。

温泉は 1 階のフロント右奥にある。脱衣室前には洗面台があり、多数のカランが並んでいる。ここは宿泊者の歯磨き場であろうか。マッサージ椅子も 1 個ある。脱衣室には脱いだもの物を入れる棚が 12 個。コインロッカーはない。

いよいよ浴室である。浴室はシンプルそのものであり、洗い場 3 か所の他に浴槽があるだけで、それ以外のものは何もない。洗い場にはシャンプーとボディーソープが完備されている。問題は浴槽だ。

硫黄のにおいがぷんぷんし、色は茶褐色。いかにも温泉と言った外観である。湯温は 45℃以上。めちゃくちゃ熱いのである。幸い、浴槽の端の湯が入ってくる場所に大きな樹脂製のボールバルブが見える。これを開くと水が出てくる。他の客がいなければ、自分好みの温度に薄めることができる。これを使ってやっと適温になった。

稲子湯には常連客もいる。たまたまその場にいた常連客は、清里から通っている人であった。清里を含めて、周辺の温泉の中でこの稲子湯が一番良いというのがその人の考えであった。そのため、わざわざ時間をかけて清里から通っているのだという。稲子湯、恐るべしである。

ちなみに、稲子湯は単純二酸化炭素・硫黄冷鉱泉（低張性弱酸性冷鉱泉）で、筋肉しくは関節の慢性

的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、胃腸機能の低下（胃がもたれる、胃にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫。痔の痛み、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、末梢神経障害、冷え性、自律神経不安定症、アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、慢性湿疹、表皮化膿症に効くという。

登山、スキーの後に稲子湯。最高で至福の時間が約束されている。

DATA

名称	稲子湯
所在地	長野県南佐久郡小海町 稲子 1343
電話	0267-93-2262
営業時間	要確認
定休日	無休
入浴料	650 円
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2016 年 12 月 3 日（土）
取材	銭湯愛好会東京支部